

直言 データ脱出

2

竹中経済財政・金融相が
米雑誌のインタビューに対
し、「(巨大銀行も)大き
過ぎてつぶせないとは思わ
ない」と答えたことは、極
めて重大な意味を持つ。
これは、世界の金融当局
が守ってきた金科玉条を
否定しかねない発言だっ
た。金融当局は「ツウ・ピッ
グ・ツウ・フェイル(Too
big to fail)大き過ぎ
てつぶせない」の原則に縛
られて、大銀行はつぶさない
方針を貫いてきたからだ。銀行は日本経
済にマネーと
市場関係者は、大銀行と大
企業が次々に倒産した一九
三〇年代前半のアメリカの
大恐慌時代を
連想したに違
いない。
いま政府に
求められてい
るのは、国民を動揺させる
のではなく、安心感を与え
る。その機能を守るため、
政府は公的資金を投入して
でも、大銀行は破たんさせ
ないことを宣言すべきだ。
スウェーデンのケースが
参考になる。開発ブームの

文京学院大学教授

菊池 英博 氏

59年東京銀行(現東京三菱
銀行)入行。ニューヨーク、
ミラノ支店、豪州東銀取締役
頭取など歴任。95年から文京
学院大教授。主な著書には「銀
行ビッグバン」、「銀行の破
綻と競争の経済学」。66歳。



終焉で、九〇年代前半に
全銀行の貸出額の18%が不
良債権化した。大手二銀行
が経営危機に陥ったが、政
府は「銀行へ資本注入して
一時国有化した。投入した
公的資金は国内総生産(G
DP)の4.3%に膨らん
だ。そのおかげで、不良債
権問題は約三年という短期
間で終結した。
不良債権問題の混とん状
態から抜け出すため、政府
が公的資金注入を決断する
線」に走るべきでない。銀
行は経営が悪化した融資先
企業であっても、何とか生
き延びさせ、成長させるこ
とを考えていく。それが銀
行の責務である。

(2面に続く)

大銀行の破たん防げ

大銀行はつぶさない
方針を貫いてきたからだ。
銀行は日本経
済にマネーと
市場関係者は、大銀行と大
企業が次々に倒産した一九
三〇年代前半のアメリカの
大恐慌時代を
連想したに違
いない。
いま政府に
求められてい
るのは、国民を動揺させる
のではなく、安心感を与え
る。その機能を守るため、
政府は公的資金を投入して
でも、大銀行は破たんさせ
ないことを宣言すべきだ。
スウェーデンのケースが
参考になる。開発ブームの

不良債権問題の抜本解決に
つながらなかった。注入額
が、九八年でGDP比0.4
%、九九年で1.5%と小規
模にとどまったからだ。

日本では、九
八年、九九年と
一回にわたって
公的資金を銀行
に注入したが、
への検査を厳格化し、貸し
倒れに備える引当金が不十
分であれば積み増しを求め
るのが正攻法だろう。
だが、やみくもに不良債
権処理を加速させ、その結

主張ポイント

* 公的資金投入大胆に

* 銀行は企業再生に責任を

